【　日　出　町　】

令和４年度　全国学力・学習状況調査結果（小学校）

調査結果の分析

小学校：国語

※赤数字は全国の正答率を下回るもの

小学校6年生 国　語	平均正答率	学習指導要領の領域等別平均正答率						評価の観点別平均正答率			問題形式		
		知識及び技能			思考力・判断力・表現力等								
	全体	言葉の特徴や使い方に関する事項	情報の扱い方に関する事項	我が国の言語文化に関する事項	話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	選択式	短答式	記述式
全国	65.6	69.0		77.9	66.2	48.5	66.6	70.5	62.0		71.8	63.6	51.3
県	66.0	70.0		83.1	65.3	49.1	65.1	72.2	61.2		71.8	65.4	50.7
日出町	65.0	66.9		86.6	65.2	51.2	65.7	70.2	62.0		72.6	61.3	50.8

○教科全体の平均正答率は、全国平均とほぼ同率である。
○領域別平均正答率では、「言葉の特徴や使い方に関する事項」の平均正答率が、全国・県平均と比較して低い。観点別平均正答率は「知識・技能」が低く、漢字や修飾語など、言語に関する知識・技能に課題がみられた。
○「話し言葉と書き言葉との違いを理解する」を出題の趣旨とする問題の平均正答率は、全国・県平均と比較して 3.7 ポイント低くなっている。
○「学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う」を出題の趣旨とする問題では、正答率が３問中３問とも全国・県平均と比較して低くなっている。前学年までの漢字の書きに課題がある。

小学校：算数

※赤数字は全国の正答率を下回るもの

小学校6年生 算　数	平均正答率	学習指導要領の領域別平均正答率					評価の観点別平均正答率			問題形式		
	全体	数と計算	図形	測定	変化と関係	データの活用	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	選択式	短答式	記述式
全国	63.2	69.8	64.0		51.3	68.7	68.2	56.7		51.8	76.5	60.2
県	64.0	70.7	64.4		51.4	68.8	68.8	57.2		51.8	77.2	61.3
日出町	61.0	69.6	63.2		45.7	67.3	65.5	55.4		48.4	74.2	60.4

○教科全体の平均正答率は、全国平均と同レベルの数値である。
○領域別正答率では、すべての領域で全国平均を下回った。
○観点別では「知識・技能」は平均値を上回ったが、「思考・判断・表現」の分野で課題がみられる。
○課題の見られた問題は以下の通りである。
　・割合　・面積の単位　・数の相対的な大きさ　・概数（見積もり）
　・複数の情報の中から適切な資料を選び、必要な情報を読み取る。（問題文、資料等、内容が多い。）
　・様々な表し方…分数…整数、仮分数、帯分数、真分数の大小比較、割合…百分率、歩合、小数、分数
○問題文を最後まで読んでいないためだと思われる誤答が多い。
○正答率が５０％未満の児童の割合は、２４．６％（全国２３．７％）で、全国平均に比べやや高い。

小学校：理科

※赤数字は全国の正答率を下回るもの

	平均正答率	学習指導要領の領域別平均正答率				評価の観点別平均正答率			問題形式		
小学校6年生 理　科	全体	「エネルギー」を柱とする領域	「粒子」を柱とする領域	「生命」を柱とする領域	「地球」を柱とする領域	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	選択式	短答式	記述式
全国	63.3	51.6	60.4	75.0	64.6	62.5	63.7		66.8	66.2	47.3
県	64.0	51.9	61.6	73.9	66.9	64.1	63.8		66.8	69.5	47.4
日出町	63.0	52.0	59.6	71.1	65.8	62.6	62.5		65.6	68.1	45.7

○教科全体の平均正答率は、全国平均と同レベルの数値である。
○領域別正答率の「粒子」「生命」で全国平均を下回った。
○観点別では「知識・技能」は平均値をやや上回ったが、「思考・判断・表現」の分野で課題がみられる。
○問題形式の記述式の回答は全国平均よりも１．６％低く課題がみられる。
○「生命」の領域の中の、特に以下の問題の正答率が低かった。
・自分の観察記録と追加された他者の観察記録を基に、問題に対するまとめを見直して書く問題
・昆虫の体の特徴を基に、ナナホシテントウが昆虫であるかどうかを説明する視点を選ぶ問題
・資料を基に、カブトムシの育ち方と主な食べ物の特徴から、二次元の表に当てはめる問題
○資料から必要な情報を選び、根拠を示して説明する問題に課題が見られる。
○正答率が５０％未満の児童の割合は、２６．９％（全国２７．２％）で、全国平均に比べやや低い。

令和４年度　全国学力・学習状況調査結果（中学校）

調査結果の分析

中学校：国語

※赤数字は全国の正答率を下回るもの

	平均正答率	学習指導要領の領域等別平均正答率						評価の観点別平均正答率			問題形式		
		知識及び技能			思考力・判断力・表現力等								
中学校3年生 国　語	全体	言葉の特徴や使い方に関する事項	情報の扱い方に関する事項	我が国の言語文化に関する事項	話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	選択式	短答式	記述式
全国	69.0	72.2	46.5	70.2	63.9	46.5	67.9	69.0	62.3		73.7	70.3	57.4
県	69.0	72.5	47.9	70.6	63.7	47.9	67.5	69.5	62.3		73.7	70.9	57.5
日出町	68.0	72.1	44.6	70.0	62.3	44.6	62.0	68.7	59.2		73.0	69.3	54.1

○教科全体の平均正答率は、全国平均を１ポイント下回っている。
○領域別平均正答率、観点別平均正答率も全てにわたり、全国平均を上回っている。
○話し合いでの「質問の意図を捉える」を出題の趣旨とする問題では、正答率が９１．３％（全国９２．５％）と、全国と比較してやや低い。
○「場面と場面，場面と描写などを結び付けて，内容を解釈する」問題では、正答率６６．５％（全国７３．８％）、「表現の技法について理解する」問題では、正答率４７．４％（全国５２．５％）で、全国平均より特に低くなっている。物語文の叙述や話の展開から登場人物の心情や情景を読み取ることに課題がみられる。
○正答率が５０％未満の生徒の割合は、１７．２％（全国１５．０％）で、全国と比較して高い。

中学校：数学

※赤数字は全国の正答率を下回るもの

	平均正答率	学習指導要領の領域別平均正答率				評価の観点別平均正答率			問題形式		
中学校３年生 数　学	全体	数と式	図形	関数	データの活用	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	選択式	短答式	記述式
全国	51.4	57.4	43.6	43.6	57.1	59.9	36.2		52.6	65.7	36.2
県	52.0	60.9	40.9	41.9	56.6	60.8	35.0		52.3	67.6	35.0
日出町	52.0	60.3	39.3	43.1	58.4	62.0	33.1		52.6	69.6	33.1

○教科全体の平均正答率は、全国平均をやや上回っている。
○領域別では特に「図形」が、観点別では「思考・判断・表現」が全国の正答率を下回っている。
○図形領域の「反例の意味理解」「角の大きさについての説明を完成する」「証明で用いられている三角形の合同条件を書く」に関する問題の正答率がいずれも低い。図形に関する基本的な学習内容の定着と、根拠を明確にした説明に課題があると思われる。
○正答率が５０%未満の生徒の割合は、２６．０%（全国３２．４%）で、全国に比べて低い。

中学校：理科

※赤数字は全国の正答率を下回るもの

	平均正答率	学習指導要領の領域別平均正答率				評価の観点別平均正答率			問題形式		
中学校３年生 理　科	全体	「エネルギー」を柱とする領域	「粒子」を柱とする領域	「生命」を柱とする領域	「地球」を柱とする領域	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	選択式	短答式	記述式
全国	49.3	41.9	50.9	57.9	44.3	46.1	51.0		49.6	24.8	53.5
県	49.0	41.8	52.5	56.7	44.5	47.2	50.6		50.2	25.4	52.0
日出町	48.0	42.3	51.3	54.2	42.4	48.4	48.2		49.5	23.1	49.6

○教科全体の平均正答率は、全国平均をやや下回っている。
○領域では「生命」「地球」が全国の正答率を下回り、観点別では「思考・判断・表現」の正答率が特に低い。
○特に以下の問題に課題がみられた。
・観測した気圧と天気図の気圧が異なる理由を空気の柱の長さで説明する問題
・予想や仮説と異なる実験の結果が出る場合、その意味や考えられる可能性について考える問題
・生物Ｘが昆虫類かどうかアリと比較しながら、観点と基準を明確にして判断する問題
○資料から必要な情報を選び、根拠を示して説明する問題に課題が見られる。
○正答率が５０%未満の生徒の割合は、５５．４%（全国５１．５%）で、全国に比べて高い。

具体的な改善方法

□ 各教科の改善策

【国　語】
○相手を意識し、立場や根拠を明確にして話したり、書いたりする学習活動に取り組ませる。
○漢字の成り立ちや意味のおもしろさ等について、授業の中でポイントを押さえた指導を行うとともに、学習した言葉の力が生かせる場の設定をする。
○「伝えたいことは何なのか」を常に考えながら、聞いたり読んだりすることを意識させる。
○叙述や描写に即して丁寧に読み進めることで、場面の展開、登場人物の心情や行動を正確に捉えて内容を理解する学習に取り組ませる。

【算数・数学】
○基礎・基本の定着を確実に行う。
○数の概念形成、量感を大切にした授業を行う。
○情報を取捨選択して回答するような学習活動を取り入れる。
○データの活用（中学）の授業などの際、レポート作成などの活動を取り入れ、学習した数学用語を使うことにより定着を図る。
○年間指導計画の見直しを行い、学習内容の定着や活用問題を扱う時間を設定する。
【理　科】
○小学校のうちから、生活経験や身の回りの事象と関連付けて考えられるようにする。
○基礎的な事項や理科用語の理解を徹底する。（ミニテストや週末課題など）
○実験（観察）では、これまで通り予想・方法・実験（観察）・結果・考察の過程を大切にし、考察の際には根拠やキーワードを用いて自力で説明する機会を作る。（単元のまとめなどで）
○いくつかの図・表・文章などの資料を読み取り、必要な情報を選び整理して説明する場を意図的につくる。　（活用問題の利用）

□　学校全体で取り組む授業改善
○各学校の「授業改善の５点セット」おける検証指標をもとに検証を行い、成果と課題を明らかにしながらＰＤＣＡサイクルを機能させる。
○学習の見通しをもたせ、意欲を高める「めあて」、学びの成果を実感し、学んだことや意欲・問題意識等を次につなげる「振り返り」、追究すべき事柄を明確にする「課題」、追究した結果を明確にする「まとめ」の設定を確実に行う。
○自己の考えをもち、表現すること・様々な人との対話・協働により自分の考えを深化・拡充する等、生徒指導の３機能を意識した問題解決的な授業を工夫する。
○教科を問わず指導過程の中で、相手を意識し、立場を明確（根拠や理由付け）にして表現する場を設け、話す・書く力を育成する。
○自分の考えを広げたり、深めたりするために効果的な交流の場を設定する。また、思考ツールや「言語活動育成ハンドブック」を活用し、各教科等における思考力・判断力・表現力を育成する。
○全国学力・学習状況調査の結果の分析を確実に行い、「授業アイディア例」等を積極的に活用する。

□　確かな見取りと個に応じた指導の充実
○つけたい力を明確にし、「具体的な評価規準」に基づく確かな見取りと「努力を要する状況」の児童生徒や特別な配慮を必要とする児童生徒への具体的な手立てを講じる。必要に応じて個別指導や補充学習を行う。

□　町標準学力調査を活用する
○１２月末、小学校４年生～中学校２年生全員を対象に町標準学力調査（小学校は、国語・算数・理科、中学校は、国語・社会・数学・理科・英語）を実施し、結果を各学校の授業改善に生かす。
○調査結果をもとに、各学校で１年間の指導の検証を行うとともに、年度末に向けての指導方針を明らかにし、次年度につなげる。

□　家庭、地域との連携
○規則正しい生活習慣づくりのため、「１０（１１）－７－１運動」「テレビやゲームは１日２時間以内」の推進を図る。
○学校運営協議会等を通じて、学校の教育目標や児童生徒の課題とその解決について理解・協力を要請する。

【　日　出　町　】

令和４年度　全国学力・学習状況調査結果（児童生徒質問紙）

１　調査結果の概要

児童質問紙

全国平均と比較して特徴的な項目

《学習習慣・授業等に関すること》

○教科の愛好度

国語　６４．８％（全国比　＋５．６％）
算数　５７．３％（全国比　－５．２％）
理科　７８．６％（全国比　－１．１％）

○「５年生までに受けた授業では，課題の解決に向けて，自分で考え，自分から取り組んでいましたか」の問いに、８０．２％（全国７７．３）が肯定的に答えている。

○「学校にいくのは楽しいと思いますか」の問いに、肯定的に答えている児童は９０．５％で、全国平均に比べ、５．１ポイント高い。

○「読書は好きですか」の問いに、８１．８％（全国比＋４．４％）の児童が肯定的に答えている。

●「５年生までに受けた授業では，自分の思いや考えをもとに，作品や作文など新しいものを創り出す活動を行っていましたか」の問いに、肯定的に答えている児童は６０。４％で、全国平均よりも８ポイント低い。

《生活習慣・自尊感情等に関すること》

○「朝食を毎日食べていますか」に対して、８８．９％（全国８４．９％）が「毎日食べている」と答えている。

●「困りごとや不安がある時に，先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか」の問いに肯定的に答えた児童は５５．７％で、全国平均に比べ１２．４ポイント低い。

●「自分にはよいところがあると思いますか」の問いに、「ある」と答えた児童は３４．４％で、全国平均に比べ５．０ポイント低い。

生徒質問紙

全国平均と比較して特徴的な項目

《学習習慣・授業等に関すること》

○教科の愛好度

国語　６８．２％（全国比　＋６．３％）
算数　６１．１％（全国比　＋３．０％）
理科　７１．９％（全国比　＋５．５％）

○「学校の授業時間以外に普段（月から金曜日)、１日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか」の問いに、「２時間以上する」と答えた児童は４８．５％で、全国平均より１３．３ポイント高い。

○「土曜日や日曜日など学校が休みの日に、１日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか」の問いに、「３時間以上する」と答えた児童は４３．１％で、全国平均より２２．５ポイント高い。

○「１，２年生のときに受けた授業では，各教科などで学んだことを生かしながら，自分の考えをまとめる活動を行っていましたか」の問いに７７．４％（全国６７．４）が肯定的に答えている。

●「２年生の時に受けた授業で自分の考えを発表する場面では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文書、話の組み立てなどを工夫して発表していましたか」の問いに、肯定的に答えている生徒は５７．３％で、全国平均よりも６．０ポイント低い。

《生活習慣・自尊感情等に関すること》

○「朝食を毎日食べていますか。」に対し、８７．０％の生徒が「食べている」と答え、全国平均とに比べ、７．１ポイント高い。

○「毎日、同じくらいの時刻に起きていますか」の問いに、「起きている」と答えた生徒は、６３．６％で、全国平均より６．８ポイント高い。
○「将来の目標を持っていますか」の問いに肯定的に答えた生徒は、３１．８％（全国２７．５）で全国より４．３ポイント高い。
○「自分にはよいところがあると思いますか」の問いに、肯定的に答えた生徒は、７９．５で、全国平均に比べ、１．０ポイント高い。
●「困りごとや不安がある時に，先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか」の問いに、肯定的に答えた生徒は、５７．３で、全国平均に比べ、９．３イント低い。

2　日出町の児童生徒質問紙の調査結果をふまえて

《学習習慣・授業等に関すること》

○教科の愛好度が高い方が、正答率も高い傾向がみられることから、児童生徒にとって授業が「わかる」「できる」「楽しい」と感じ、学習したことが生活に役立つことを実感できるような授業展開を大切にしていくことが重要である。
○家庭での学習時間は、小・中ともに全国平均と比べて長く、家庭学習の習慣化ができていると考えられる。今後も、授業で学んだ内容と家庭学習とのつながりを意識し、評価と指導を充実させていく必要がある。
●小・中学校ともに、「授業で自分の考えを発表する場面では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文書、話の組み立てなどを工夫して発表していましたか」の問いに対する肯定的な回答の割合は、全国平均よりも低い。
　今まで以上に、ペア学習やグループ学習を日常的に取り入れた、対話的な学習を意識するとともに、授業の中で考えたことを発表する機会を多く取り入れる必要がある。その際、何のために対話をするのか（目的）や何を話し合わせるのか（話し合いの必然性）等、授業のねらいと指導の意図を明確にして取り組む必要がある。

≪生活習慣・自尊感情等に関すること≫

○朝食の摂取率は、小・中ともに「日出町アクションプラン達成指標８５％」は超えており、よい傾向がみられる。今後も基本的な生活習慣の確立のために ※「１０（１１）－７－１運動」の推進をすすめていく。
※午後１０時（中学生は１１時）までに寝て、午前７時までに起き、茶碗一杯（食パン一枚）の朝ご飯を食べようという日出町での運動。
●「困りごとや不安がある時に，先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか」の問いに、肯定的に答えた児童生徒の割合は、小・中いずれも全国平均に比べかなり低くなっている。子ども一人一人についての理解を深め、日常の授業や学校生活で子どもたちとの関わりを深めていく必要がある。
●「自分にはよいところがあると思っていますか」の問いに対し、肯定的な回答をした児童の割合が全国平均と比べて低く、生徒の割合は全国とほぼ同じであった。学校の教育活動全体の中で、支持的風土ある学級づくりを行い、よりよい人間関係の構築をめざした取組を充実させる必要がある。また、児童生徒一人一人の学習状況を把握しながら、習熟の程度に応じた指導の手立てを工夫するなど、全員が「活躍できる」「わかる、できる」授業の実現を目指していくことが重要である。

【　日　出　町　】

令和４年度　全国学力・学習状況調査結果（学校質問紙）

１　調査結果の概要

小学校：学校質問紙

全国平均と比較して特徴的な項目

○「調査対象学年の児童は、授業において、自らの考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して、発言や発表を行うことができている」に対し、全ての学校が「そう思う」と回答している。多くの学校が研究テーマとして取り組んでいる内容でもあり、自分の考えを伝える活動を大切にした授業展開がなされていると言える。

○授業改善や研修の実施、学習課題の把握などの質問については、すべての学校で肯定的な回答となっており、組織的に取り組むことができていると言える。

○「児童の姿や地域の現状等に関する調査や各種データなどに基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のＰＤＣＡサイクルを確立しているか」に対しては、すべての学校が「よくしている」と回答しており、教育課程の活用ができていると言える。

●ＩＣＴ機器の活用が昨年度よりも進んできているが、「自分の考えをまとめ、発表・表現する場面での活用」は、県・全国に比べると取り組めていない

●「前年度までに近隣の中学校と成果や課題を共有した」「近隣等の中学校と、教科の教育課程の接続や、教科に関する目標設定など共通の取組を行っている」の質問について、肯定的に答えた学校は県平均・全国平均より少ない。小中連携の内容については、課題がみられる。

中学校：学校質問紙

全国平均と比較して特徴的な項目

○「スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーによる教育相談に関して、生徒が相談したい時に相談できる体制となっている」について、両校とも「そう思う」と回答している。教育相談体制が確立されていると言える。不登校傾向の生徒や悩みを抱える生徒への適切な支援につながるようにしていきたい。

○全学校で、学級経営の状況や課題を全教職員の間で共有し、学校として組織的に取り組むことが定着している。

●近隣小学校との接続については、両校とも「やや不十分」と考えている。

●授業におけるＩＣＴ機器の活用については、昨年度より進んできているが、生徒が自分の考えをまとめ、発表・表現する場面での活用については、両校とも「月１回以上」で、県・国に比べて少なくなっている。

２　日出町の学校質問紙調査の結果をふまえて

○各教科のワーキンググループ会議で、各種学力調査に関する分析と対策を行うとともに、「町内全体で取組やすく、効果的」な授業改善の方法等を考え、学力向上推進委員会で提案する。学力向上推進委員会で、各校の学力向上に係る取組状況の交流や町全体の抱える課題解決の方策等の協議を行い、町内全体で取組を進めていく。

○すべての小・中学校で地域内の学校と調査の分析結果は共有できているが、研究や研修等の合同実施、教育課程の接続等については課題が見られる。小学校の授業実践、中学校の学習規律等を共有し、子どもたちの学びを持続させ、９年間を見通した学力の定着を図るためにも、校種を超えた公開授業への参加など、小中連携の取組を充実させたい。

○各校の学力向上会議や、日出町学力向上推進委員会等で、今回、質問紙調査で挙がった課題について共通理解を図り、小・中学校の取組に関する意見交流を行い、授業改善等の取組を連携して進める。

○ＩＣＴ機器の活用については、活用している教員とそうでない教員の差がみられる。特に一人１台端末の活用について実践交流等のＯＪＴや研修の機会を設け、日常的で効果的な活用を推進していく。